

29

“共働する一つの図書館” を目指して 東京大学工学・情報理工学図書館

“共働する一つの図書館”を目指して。

明治6年(1873年)、工学専門の大学図書館として「書房」設置。書房廃止からの変遷を経て、平成18年(2006年)4月、12の専攻図書室を事務組織として統合し「東京大学工学・情報理工学図書館」が発足しました。現在、10の各専門図書室は、担当する専攻特有のニーズに対応してきめ細かな利用者サービスを追求しながら、1つの図書館組織として、これまでよりもさらに質の高いサービスをめざしています。

図書室名	担当専攻
工1号館図書室A	社会基盤学
工1号館図書室B	建築学
工2号館図書室	機械系工学、電気電子系工学、精密工学、他
工3号館図書室	システム創成学、化学系工学、原子子国際、技術経営戦略学
工4号館図書室	マテリアル工学
工5号館図書室	化学生工学、バイオエンジニアリング
工6号館図書室	物理工学、計数工学、数理情報学、システム情報学、創造情報学
工7号館図書室	航空宇宙工学
工14号館図書室	都市工学
理7号館図書室	コンピュータ科学、理学部情報科学科

当館の学生への取り組みの数々を紹介いたします。

学生への情報発信

進学選択支援

東京大学の教養学部生は3年生に進級するときに専門の学部を選択します。当館では1・2年生に身近な図書館の一部スペースを借りて、関連する資料を展示し、学部選択のための情報提供に努めています。この取り組みによって工学系・情報理工学系への興味・関心を醸成しています。また、理解促進のために各図書室がセレクトした「学生のことがわかる資料2018」はブローグで紹介しています。

オープンアクセスウィーク

東京大学附属図書館では、2016年より「国際オープンアクセスウィーク」の開催期間にあわせて、啓発・促進活動を取り組んでいます。当館においても、工学系・情報理工学系の教員や学生向けの独自説明資料を作成してきました。また全学の「オープンアクセスハンドブック」作成プロジェクトに参画し、図書館員の理解をより深めるよう努めています。

教員著書コーナー

工1号館図書室は、都市工学専攻の教員著書コーナーを常設しました。講義に役立つ、研究成果がわかる、専攻選択の参考になる等、教員の著書が簡単に手に取れ、教員や関連資料への関心が広がり、学生にとって有意義なコーナーです。さらに教員の協力のもと、未所蔵の著書を順次高蔵受入や購入を予定し、コーナーの充実を図っていく計画です。

ニュース紹介

教員のインタビュー記事や、先輩の学会での受賞記事など、身近な仲間の活躍は興味になるものです。大学のサイトや新聞記事等から定期的にピックアップして学生に紹介しています。現在は、図書室の掲示板のみですが、足を止めて見入っている学生も増えており、静かに注目されています。

知識の拡大・深化のために

展示・トークイベントの継続開催

工2号館図書室には、展示スペースがあります。当館発足10周年を記念して、2016年の夏より、学内外の部署・研究室を通じて、工学史料などの歴史的資料や若手教員の先端研究を紹介、または外部企業と連携した展示・トークイベントを企画・開催し、学生の興味関心の喚起に努めています。これまで2年間に展示9件、トークイベント4件を実施してきました。今年は、東京大学工学部イベント4件を実施してきました。「長距離送電線、電気炉建設の歴史的資料として『構造折紙展』等があげられます。先駆研究の紹介では『構造折紙展』等があります。

SDGsとGENKI BOOKS

SDGsの平等は国連のSDGs(持続可能な開発目標)のゴールの一つです。東京大学は、SDGsを最大限に活用する方針を示しました。男女共同参画基本計画に基づき様々な取り組みを進めています。これに応えて当館は、工2号館図書室に男女共同参画参画開拓会議のコーナーを設けました。コーナーの名前は「GENKI BOOKS (Gender Equality : Non-normative Knowledge and Information)」です。図書室を運営する団体の名も3ヶ月毎にテーマを替え、学生立女性教育会館との連携のもと3ヶ月毎にテーマを替えて、活動に役立つ知識と情報の提供に取り組んでいます。

工学教諭

「東京大学工学部、および東京大学大学院工学系研究科において教育する工学はいかにあるべきか」この想いから始動した工学教育する工学はいかにあるべきか、この想いから始動した工学のテキスト「工学教諭」は現在34タイトルを数えるまでになりました。今後も継続して新刊が刊行されます。これら全タイトルを当館の全図書室に配架し、学生の利用に応えています。

工学史料キュレーション事業

当館では、工学部・工学系・情報理工学系研究科において、各教科や物品の調査・収集を行っています。最近の成績は、150年生の基礎資料作成にもつながる作業です。東京大学工学部では、建築家・構造工学者・西洋人による評議、東京帝國大学時代の土木工学の測量技術研究会や、構造工学研究会等の会員のコンピュータ技術が挙げられます。

各室独自の分散型サービス

各室独自の企画コーナー

当館全体での大きな展示は別に、各図書室での独自展示も行っています。各専攻の色を出した展示は、専門の学生に深くささるものだと思います。これは専門図書室といふ特徴のまでもあります。最近の事例では工1号館図書室A(社会基盤学)でコンクリートに関する展示を行いました。

24時間図書室

24時間図書室は、やってみたいけど課題が多すぎて、というところが多いのではないかでしょうか？ 当館では実現可能な2つの図書室から先行して実施しています。全体での実施とともに調整や準備がたいへんになりますが、自動的に運営し、小回りの利く小規模図書室のメリットといえます。

各図書室での選書

各図書室は次の裁量で図書を購入することができます。そのため非常に迅速な意思決定が可能です。早い時は学生のリクエストに対しても日曜日には決めていたりする珍しいこともあります。図書館員はこれを大きなメリットです。更に、当館全体の選書のバランスをチェックするチームにより、底構成に複雑なバランスが生じないよう、コントロールをできています。

学生と共に働く

学生による選書

学部学生(一部大学院学生を含む。)が大学の一員としての賛りを持って、大学の公的活動に参画することに対し、奨励費を支給する「東京大学ミニニアッズフ」制度を利用して、毎年、学生から雄志を翼り、選書があつまっています。図書館員は、教員目録はまだどうぞと思った「今」を感じる選書が魅力です。この結果は学生セレクトとしてブローグで公開しています。また選書結果の発表会も催されており、毎年熱のこもったプレゼンテーションが行われています。

情報探索ガイド

春と秋に工学系・情報理工学系に特化した内容で、論文検索・論文収集を効率的にできるための内面を心がけています。特に、秋には留学生を対象として英語でのガイドも実施しており、先輩留学生や日本大学院生が講師になり熱くガイド致します。

学生による夜間の図書室サービス

工2号館図書室では、職員の勤務1.5時間の時間帯を学生スタッフによって運用しています。図書館に興味のある学生を招いて、閲覧室の販売が可能になります。また、学生スタッフ用マニュアルの整備を通してカウンターの無駄な業務の洗い出しができました。

レファレンスとラーニングコモンズ

レファレンスの協力体制

工学系・情報理工学系の図書の分野にまたがる質問が利用者が寄せられたとき、各図書室は専門図書室の能力を活かし、図書室員で協力して回答しています。例えば、工1号館図書室B(建築学)、工4号館図書室(都市工学)の3図書室で回答することもあります。

レファレンスを全て記録これまで各図書室は、個々にレファレンス記録は、どちらに記録するかで悩んでいました。そこで、このレファレンス記録は、どちらに記録するかという点でなく利用者とのコミュニケーション全て記録しようという試みであります。新たなサービスを確立するたまには、ニーズの把握が肝要です。我々が確認したいことは、それが多く寄せられるのであります。まずは簡単な問題です。全てを記録していくここはつまづく作業ですが、新サービスを発掘するために全図書室で取り組んでいます。

グループ学習室

2010年4月、工2号館図書室にグループ学習室を新設しました。ちょうど大学附属図書館でラーニングコモンズやアカデミックラーニングルームが開始された頃で、サービス開始当初から学生の反響が大きかったのです。そこで、お隣、即ち、工1号館図書室(社会基盤学)の図書室で同じように取り組みました。結果的に、非常に好評でした。